

会 議 議 事 録

会議の 名 称	生命倫理委員会	日 時	平成26年5月15日(木)17:00~18:00
		場 所	大 会 議 室
出席者	委員長：森村統括診療部長 委 員：澤田臨床研究部長、内炭救急部長、柳田診療部長、 竹内外部委員、松蔭外部委員、光木看護部長 <div style="text-align: right;">(書記)庶務係長</div>		
議 題 及 び 討 議 事 項			
<p>【トシリズマブ皮下注射製剤の実臨床下における関節リウマチ患者に対する就労・家事労働の改善および機能的改善、日常生活動作改善の検討】</p> <p>受付番号：26-2 頁数：1頁～63頁 (申請者：診療部長 柳田 英寿)</p> <p>申請者説明： 就労、または家事労働に従事している関節リウマチ患者を対象として、トシリズマブ皮下注製剤にて治療した際の就労改善および家事労働改善を含む有効性と安全性を、抗リウマチ薬投与群と、傾向スコアにより患者背景をマッチングさせて比較検討する、国内多施設前向き観察研究である。</p> <p>主要評価項目：WPAIを用いたWork impairmentの変化量 副次的評価項目：WPAIを用いた各項目の推移、就労率の推移、家事労働状況の推移、うつ状態の推移、一般的な生活の質の推移、疾患活動性の推移と寛解率の推移、有害事象調査期間は104週間で、研究実施期間は2013年10月から2017年12月である。</p> <p>審査内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存DMARDs治療群との無作為割り付けによる比較試験で行った場合のDMARDs治療群に割り付けられた患者の不利益とは何か。 →トシリズマブを使用すると、3割負担の場合1ヶ月約23,000円の自己負担が生じるため、患者の経済環境も考慮して実臨床の場においては、トシリズマブの使用について選択の余地を残している。 ・質問票において、同居する家族の世帯年収について記載する必要はあるのか。 →トシリズマブの使用については経済的負担が大きいことから、事前に確認するという意味で質問しているが、自由記載であり強制ではない。 <p>審査結果：上記意見はあったが、承認。</p> <p>【退院前訪問に関するアンケート調査】</p> <p>受付番号：26-3 頁数：64頁～76頁</p>			

(申請者：理学療法士 小西 通晶)

申請者説明：

【目的】リハビリテーション科では退院後の患者様の生活がスムーズに行えるよう、退院前訪問に同行している。現在、実施している退院前訪問をより良くする為に、患者様(家族含む)ならびにケアマネージャーに対しアンケートを実施し、問題点を抽出し今後の活動に立てる。

【対象】退院前訪問を実施した患者様(家族含む)ならびにケアマネージャー

【方法】退院前訪問を実施した患者様(家族含む)ならびにケアマネージャーにアンケートを配布・回収し、問題点を抽出する。

- ・配布方法：訪問実施日に、患者様(家族含む)・ケアマネージャーに手渡し
- ・回収方法：訪問実施日以降、退院迄(当院来院時)にリハビリテーション科のスタッフまで持参してもらう。
- ・アンケート内容は別紙参照。

審査内容：特になし。

審査結果：承認。